
前世の彼との交換日記

noriko

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

前世の彼との交換日記

【Nコード】

N6895P

【作者名】

noriko

【あらすじ】

戦国時代くらいに生まれた少年と平成生まれの少女の話です。

タイトルは適当。

序章

いつまでも桜が舞い散り、木々も稲も作物も豊かに育つ肥沃なわたしの大地。わたしの土地の人間達もモノノケ達も皆覇気に満ちている。全てわたしの御蔭なのに、彼らはそのことに気付かない。

この土地でわたしは神様と呼ばれている。

わたしは今日も一人、孤独だ。

この暗い洞穴に来てたくさんの季節が去った。

この暗い洞窟の中で胸に杭を打たれ、この土地に縫い付けられて何度も何度も苦痛の呻き声をあげた。

わたしは今日も一人、胸から放たれる痛みに絶望の声を上げ、呪詛をつぶやく。

こんな土地、滅びてしまえと。

まあ、やさぐれた私のことは今はおいておこう。

わたしの言葉は今日もどこにも誰にも届かないが、わたしの土地の全ての者たちの声や思いはわたしには届く。

ずっと昔、わたしの土地には一風変わった少年が居た。少年の心はわたしと同じようにやさぐれていて、わたしのお気に入り少年だった。だから少年の願いを一つだけ叶えてあげることにした。

少年はわたしに聞いた。「来世の俺と話することはできますか」

一話

私こと笹舟凜に困りごとは少ない。

成績も問題なく、運動も得意なほうだ。剣道に関しては男子にも負ける気がしない。

ただ、容姿に関してはよく分らない。私には誰が美しくて誰が醜くて誰がかっこ良いがイマイチ分らない。人間の造形なんて50歩100歩、つまりは大した違いがあるようには思えないのだ。

ただ、性格に関して親友の桃子には「凜ちゃんってかっこいい」と言われる。「女にしては落ち着きあって凄い」と彼女は私の前では言うけれど私がいなくて、
「笹舟っていつも冷静ぶってムカつく」と言っているようなので、とりあえず表情に変化が少ないのかもしれない。

唐突だが、私の好きなものを言わせてもらおう。

一つ目は、刀。

二つ目は、決闘。

三つ目は、剣道だ。

何というか、私は武士道というものが大好きな人間なのだ。女の癖に、と家族から言われるが仕方がない。もしかしたら幼いころから見ていた時代劇が原因かもしれない。ともかく、付き合うなら、筋の通った男と決めている。

唐突だが、私の嫌いなものを言わせてもらおう。

一つ目は、ウジウジした弱い人間。

二つ目は、外食。

三つ目は、カラオケ。

外食とカラオケはともかくとして、私はうじうじとした人間が大嫌

いだ。特に、弱い男は嫌いだ。話をするだけで虫唾が走る。ところが、私は最も忌み嫌う弱々しい男にへりくだらなければならぬ日々を送っているのだ。

私がへりくだっている男の名前は井澄連司。いつも黒い着物を着ている年齢不明の男だ。

年齢は不明。本人いわく、「君よりはずっと前に生まれた」とぬかしているけれど見た目は私と同じくらいにしか見えない少年だ。

彼は私の父と母がある事故によって亡くなった時、往く当てのない私を引き取るとほざいたことで私と彼の縁が結ばれた。

彼は父の親友と名乗っているが、私は彼のことを父から聞いたことなど全くない。

父は私に似て短気な性格だったが、彼はいつ見てもおどおどしている。こんな彼と父が親友だったとは思えない。

だからだろうか私は彼、井澄連司のこと未だに好きになれない。

何はともあれ、私は彼が所有する古びた旅館のよう、というか昔は旅館だった家に居候している。連司は好きになれないが、彼の旅館は嫌いではないのだ。だから今のところ私は彼のご機嫌を損ねないようにして生活している。

「凜ちゃん、今日も早いね」

いつも必ずこのかつて旅館だった家の朝には、連司と遭遇してしまう。どんなに朝早く起きてもだ。

「剣道部の朝練があるので」

私はいつものようにそっけなく言って朝食も食わずに彼の家を出るのだ。

連司は穏やかな笑みを湛えるだけ。これが私と連司の距離だ。

私には彼が何を考えているのか分からない。けれども、私は彼に頼るしかない。少なくとも、高校を卒業するまでの後、一年は。

だから私は決めていた。

私が卒業するまでは、井澄連司を利用してやろうと決めていたのだ。彼に引き取られて間もない、桜の騒がしい4月の時は。

一話（後書き）

本当は、現代の少年と前世の少年との交流を書きたかったのですが、
やっぱり男同士だと物語的に発展しないと思いました。
それで現代の少女と少年の交流を書くことにしました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6895p/>

前世の彼との交換日記

2010年12月30日19時39分発行